

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 08年7月

～輸入価格急上昇による貿易黒字の縮小続く

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

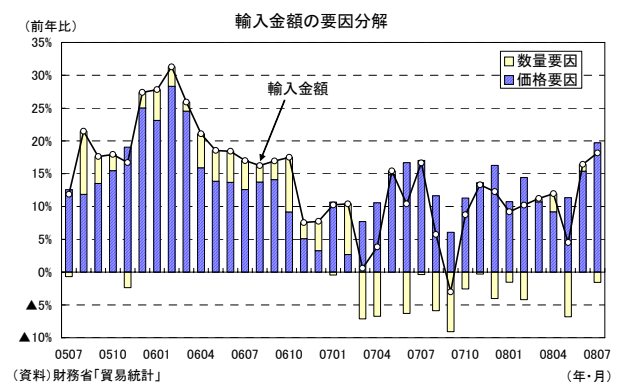
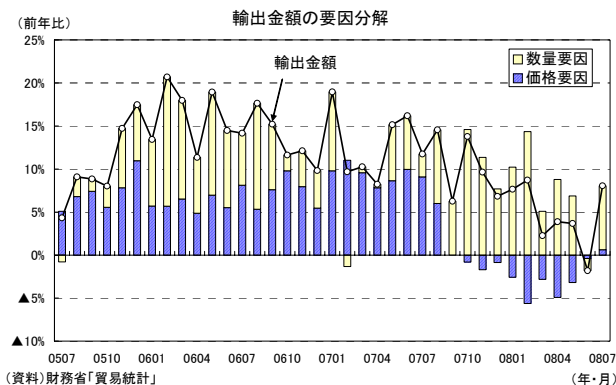
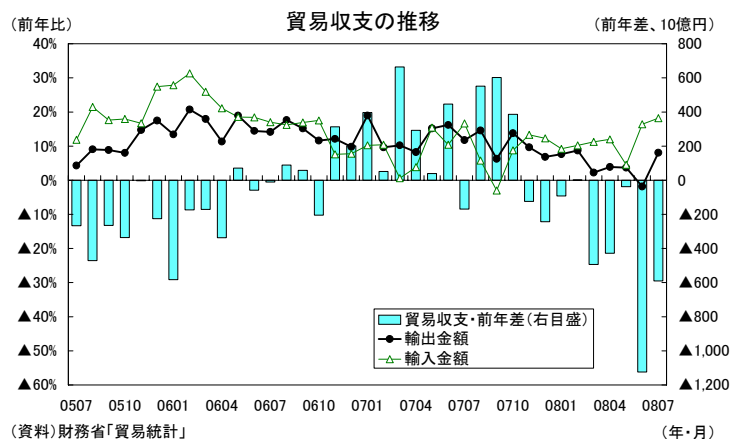
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易黒字の大幅減少続く

財務省が8月21日に公表した貿易統計によると、7月の貿易黒字は911億円、前年比▲86.6%の大幅減少となり、市場予想（ロイター集計：2,525億円、当社予想は▲129億円）を下回った。

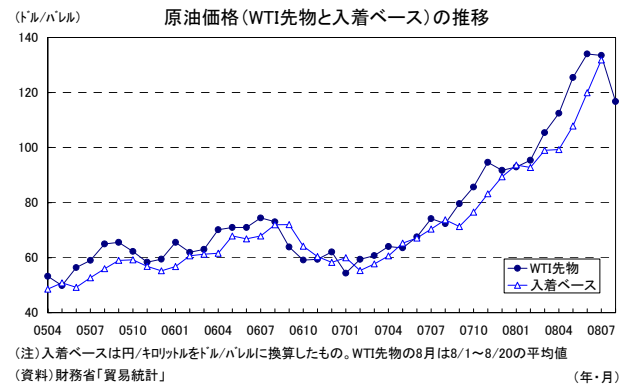
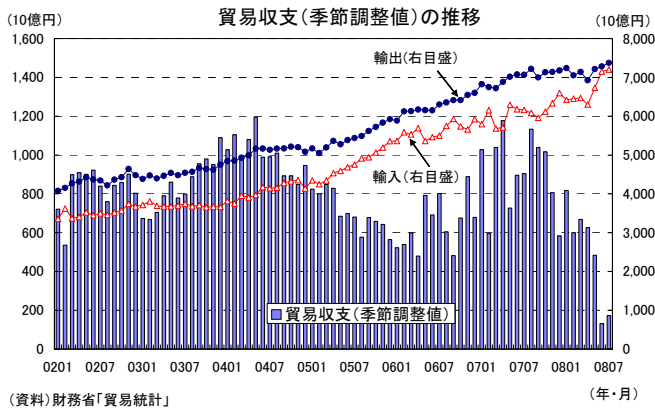
輸出数量が前年比7.4%（6月：同▲1.4%）とプラスに転じ、輸出価格も前年比0.6%（6月：同▲0.4%）と11ヵ月ぶりにプラスとなったため、輸出金額は前年比8.1%（6月：同▲1.8%）と2ヵ月ぶりの増加となった。

輸入数量は前年比▲1.4%（6月：同0.9%）と2ヵ月ぶりに減少したが、原油高の影響で輸入価格が前年比19.9%（6月：同15.3%）と非常に高い伸びとなったため、輸入金額は前年比18.2%と6月の同16.4%から伸びがさらに加速した。



貿易黒字の季節調整値は6月に前月比▲72.8%と急減した後、7月は同31.3%と持ち直したが、依然として黒字の水準は非常に低い（1,724億円）。原油価格（WTI先物）はこのところ上昇が一服しており、8月の平均値（8/1～8/20）は117ドル/バレルと7月の133ドルに比べて15ドル程度低

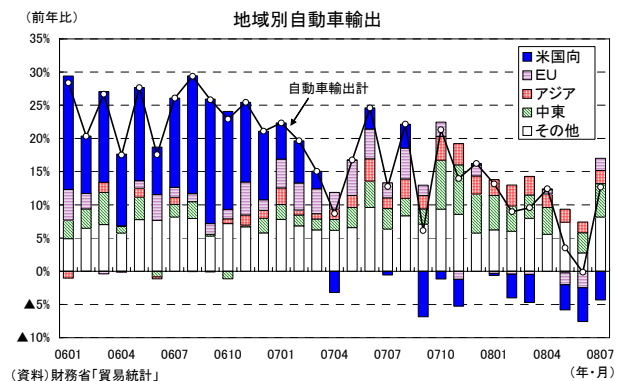
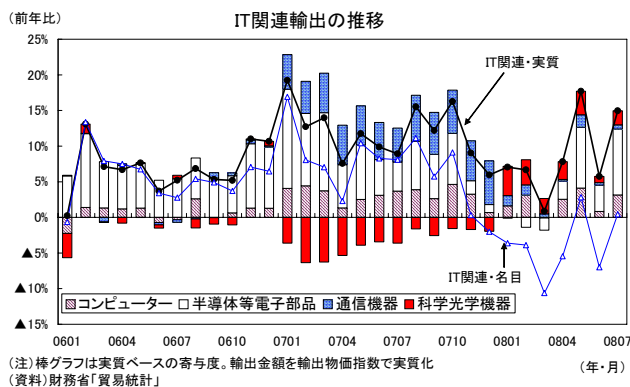
くなっている。ただし、通関（入着）ベースの原油価格はWTIに遅れて動く傾向があるため、8月も高止まりとなる可能性が高い。7月は輸出が持ち直したため、かろうじて貿易黒字を維持したが、輸出は基調としては減速傾向が続いていると見られる。輸出が再び減速に向かえば、8月以降貿易収支が赤字化する可能性もあるだろう。



2. 米国向け以外の自動車輸出が好調

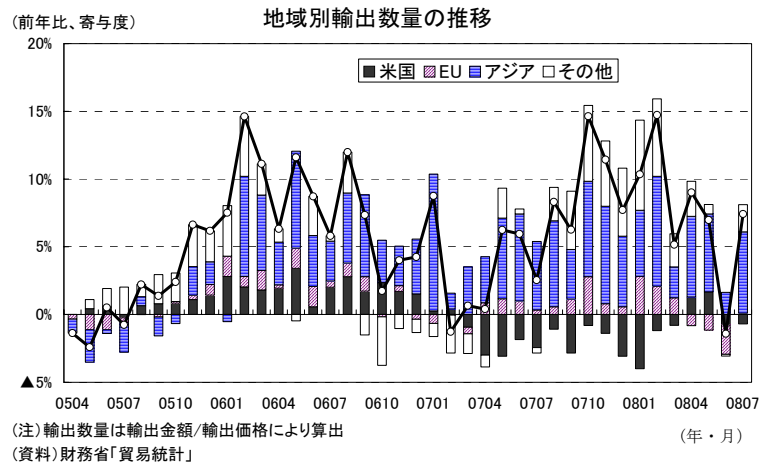
輸出の内訳を見ると、IT関連品目では、コンピューター（名目・前年比▲25.1%）、通信機（同▲2.9%）は減少したものの、コンピューター部分品（同0.6%）、半導体電子部品（4.1%）、科学光学機器（同4.7%）が増加したため、全体では前年比0.4%のほぼ横ばいとなった。IT関連品目は価格の大幅な下落が続いているため、実質の伸びは前年比15.0%と6月の同5.4%から大きく高まった。

自動車輸出は前年比12.7%（6月：同▲0.1%）と2ヵ月ぶりの増加となった。米国向けは（前年比▲11.7%）と引き続き大幅な減少となったが、アジア向け（前年比24.5%）、中東向け（同51.6%）、ロシア向け（同53.7%）が引き続き高い伸びとなり、EU向けは前年比12.3%（6月：同▲15.1%）と3ヵ月ぶりの増加となった。



輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲3.4%（6月：同▲4.0%）と2ヵ月連続で減少したが、EU向けが前年比0.8%（6月：同▲16.7%）と3ヵ月ぶりに増加に転じ、6月に急減速したアジア向けが再び二桁の伸びとなった（6月：前年比3.2%→7月：同11.7%）。

また、当研究所で試算している主要3地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向け輸出の寄与度は、6月の前年比▲0.1%から7月には2.0%へと回復した。



7月の輸出数量は前年比でマイナスとなった6月から大きく持ち直したが、米国の国内需要が依然低調であることに加え、これまで堅調が続いていた欧州でも4-6月期の経済成長率がマイナスとなるなど、海外経済の減速傾向が強まっていることからすれば、輸出の伸びが今後、さらに加速することは考えにくい。

4-6月期のGDP1次速報では、輸出が前期比▲2.3%と13四半期ぶりに減少に転じ、外需寄与度も前期比0.0%と1-3月期の同0.4%から大幅に縮小した。7-9月期の輸出は若干持ち直す可能性が出てきたが、昨年度までのような外需による大幅な押し上げは当面期待できないだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。